

美術館コレクションについて

About an art museum collection

栃尾美術館ではふるさとゆかりの作家の作品を中心に、絵画、彫刻、工芸、書などを収蔵しています。資料を含めるとその数は2,592点(平成24年1月現在)。一年に3回程度の所蔵品展を行い、その都度、テーマに沿った作品を選んで展示しています。ここまで「美術館コレクションにみる栃尾」で、紹介しきれなかった、ふるさとゆかりの作家の一部を紹介します。

風間 四郎 かざま・しろう
1902～1992

栃尾に生まれ、14歳で上京、商業美術の草創期に活躍した多田北鳥に入門。29歳で独立した後、百貨店のポスター、広告などを手がける。またトッパン(現フレールベル館)、講談社、小学館などの絵本の表紙や挿絵のほか、1948年からは月刊誌「小学一年生」月刊「よいこ」「ベビーブック」「マミ」(小学館)の表紙絵を担当、1970年末まで継続して手がけた。これらの原画を中心に、ポスターデザインなど、資料を含めると当館で最も数の多いコレクションとなる。



新宿伊勢丹開店ポスター 1933年
107cm×79.5cm



新宿伊勢丹ポスター 1935年
107cm×79.5cm

桐生 照子 きりゅう・てるこ
1937～

栃尾出身、神奈川県在住。光風会、日展で活躍し、ぶどう畑などをモチーフにみずみずしい色彩の油彩画を描いている。2003年には紺綬褒章受章。現在、日展評議員。



ぶどう園 1995～98年
油彩・キャンバス/130cm×162cm

多田 清虹 ただ・せいこう
1937～

栃尾の里山で集めた樹皮や落葉を素材とした独自の貼絵「美里絵(みさとえ)」を制作する。日本手工芸美術展ほか海外でも発表を行う一方で、地域の子どもたちに実技指導を行い美里絵の魅力を伝えている。



慈母観音 1993年
73cm×61cm

所蔵作家

椿 悦止、富川 潤一、堀 愛泉、
風間 四郎、齋藤 三郎、桐生 照子、
多田 清虹、三輪 晃勢、増井 和弘、
など

齋藤 三郎 さいとう・さぶろう
1913～1981

栃尾に生まれ、高校卒業後、近藤悠三に入門、富本憲吉に師事。24歳で独立した後、京都、神奈川で作陶活動を行う。33歳で高田市(現上越市)へ転居、上越地域の文化振興に尽力した。



辰砂窓絵椿文面取壺 1970年
高さ23cm×直径23cm

栃尾の美 ～とちおてまり～

養蚕や機織りがさかんだった栃尾では、クズ繭の糸や機織りの残り糸を利用して、古くから、祖母や母親の手により、子どもたちのために手がかりてまりが作られてきました。栃尾のてまりは中に七種の実が入り、振ると素朴な音がすること、また100以上もある模様の豊富さが特徴といわれ伝統的な技法により作られます。当館では平成22年度に企画展「てまりの美」を開催し、栃尾地域と日本各地のてまりを紹介しました。



栃尾の美

～とちおてまり～

毎年、常安寺を会場に開かれるてまりまつりでは製作実演と3000個を越えるてまりの展示即売会が開かれます。5月1日～5日 問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)

栃尾の味

湧き水と肥沃な土に恵まれた米作りは、酒やもちなどの特産品に生かされています。また味噌、しょうゆ、油揚げなど、昔ながらの食材が変わらぬ味で愛され続けています。



あぶらげ

栃尾と言えば、おいしい油揚げ。地元では、「あぶらげ」とよばれ、通常の油揚げの約3倍、長さ20cm、幅6cm、厚さ3cmという大きなものですが、味は意外と繊細。皮は香ばしく、中はふわっと柔らかく、特に揚げたての風味は格別です。栃尾に20軒近くあるあぶらげ屋さんそれぞれ味に特徴があります。昼過ぎには売り切れてしまうところも多いため、午前中に買いに行くか、予約をすることがおすすめです。

とちおこしひかり

守門岳や杜々の森など周囲の豊かな水源から湧き出す清らかな水。その水で育てられた「とちお米」のおいしさは格別です。近年、低農薬有機栽培、アイガモ農法などに取り組む農家もあり、さらにおいしい米作りをすすめています。また、秋には半蔵金や田代など米作りのさかんな地域では、なめらかで伸びのよい餅が作られます。



あぶらげまつり・コシヒカリまつり

揚げたてのあぶらげや新米コシヒカリのおにぎりを味わえます。10月第4日曜日 会場:杜々の森(問い合わせ・杜々の森名水公園「アトレとど」)(0258-58-3050)

観光物産フェア とちお自慢市

あぶらげ、地酒、和菓子、織物など栃尾の物産を展示・即売します。6月中旬 会場:道の駅R290とちお(問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195))